

症例2 Triple negativeへの術前 化学療法

Cグループの主張
予定どおりに術前化学療法を行う

補助化学療法治療の目的

再発予防→生命予後を改善すること

NSABP B-18, EORTC 10902 etc

手術可能乳がんの補助化学療法は術後に行う場合と術前に行う場合でDFS/OSともに差を認めなかった。

術前化学療法の特長

- 効果があれば、より整容性の高い温存手術が可能になる
- 薬剤感受性を確認することができる
⇒効果のない抗がん剤治療を長期に行い無駄な侵襲を加えるリスクを回避できる
トリプルネガティブ乳がんはBRCA1異常であることが多いため、アンソラサイクリンに効きやすく、タキサン系抗がん剤に抵抗性をしめすこともある
まれながら、DTXにより増大するような症例も経験する

トリプルネガティブへの術前補助化学療法のパCR率

VOLUME 26 · NUMBER 8 · MARCH 10 2008

JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY

ORIGINAL REPORT

Response to Neoadjuvant Therapy and Long-Term Survival
in Patients With Triple-Negative Breast Cancer

Cornelia Liedtke, Chafika Mazouni, Kenneth R. Hess, Fabrice André, Attila Tordai, Jaime A. Mejia,
W. Fraser Symmans, Ana M. Gonzalez-Angulo, Bryan Hennessy, Marjorie Green, Massimo Cristofanilli,
Gabriel N. Hortobagyi, and Lajos Pusztai

トリプルネガティブ症例は、トリプルネガティブでない症例と比べて、pCR率が2倍であった

結論

まれながら、DTXで増大するようなトリプルネガティブ症例もあり、そのような症例に対し、術後に化学療法を行うことは、再発リスクを増やす可能性も危惧される

- より整容性の高い手術を可能とする目的、治療反応性を評価する目的において我々は術前化学療法を行うことを主張いたします。

腫瘍が増悪した場合の対応

細かな経過観察、画像診断をおこなうことで、増悪時には迅速に対応できる体制を準備する。腫瘍の増大を確認した時点で手術への方針転換を行うことで、患者のデメリットはなくなると考える